

研 究 室 紀 要

第 43 号

東京大学大学院教育学研究科 基礎教育学研究室

2017年 7 月

目 次

《特別企画》

金森修先生の追悼企画にあたって	稲田祐貴・奥村大介・山田俊弘	(1)
金森さんへの追悼のスピーチ	佐藤 学	(3)
金森修教授 研究業績一覧	稲田 祐貴	(5)
まだ見ぬ図書館へ		
——金森修先生蔵書整理の記録——	奥村 大介	(29)
市民的公共性の発露としての〈科学批判学〉		
——『サイエンス・ウォーズ』からその先へ——	石川 洋行	(37)
「一種のフォーコー主義」の内奥		
——金森修の方法について——	稲田 祐貴	(41)
霧心の哲学		
——金森修の空間・場所論——	犬塚 悠	(45)
リベラリズムと虚構性		
——現代遺伝学史と金森修——	猪口 智広	(49)
金森修先生と書物のこと	奥村 大介	(53)
境界に住まう者たちのために		
——人間と〈人間未満の存在〉についての試論——	堀江 郁智	(55)
金森修におけるヒストリオグラフィーの問題		
——科学史記述と科学教育論の視点から——	山田 俊弘	(59)
人間であるということ		
——金森修における境界人間論の意義について——	若松 猛	(63)

《特別寄稿》

自己形成の物語と世代継承の物語の間		
——「ヒルドゥングスロマンを読む会」の40年から考える——	宮澤 康人	(67)
1980年代：史哲研究室と〈過去の消化〉		
——(4) キリスト教的主体形成から自己の解釈学へ——	吉澤 昇	(79)

《聴き取り記録》

私の教育行政学への関心		
——大学での教育研究と教育運動を中心にして——	三上 和夫	(91)

《研究論文Ⅰ》

表徴と反復		
——人はどのように学ぶのか——	田中 智志	(99)

《研究論文II》

羽仁もと子の教育思想における「自由」

——「宗教心」との関係に着目して——相田 まり (119)

子どもの哲学 (p4c) における活動的あるいは事実的生

——初期ハイデガーとアーレントにおけるロゴスに着目して——川上 英明 (131)

L.シュトラウスにおける「人間性」概念

——シュトラウス・コジェーヴ論争を手掛かりに——志田絵里子 (141)

人の根本原理としての「タマ」

——鎮魂の研究史から——高野 暁子 (153)

J・デューイの『人間本性と営為』における「正常」な「熟慮」

——「成長」の思想のより具体的な理解へ向けて——松橋 俊輔 (165)

《研究ノート》

東京市における青年団の一考察

——京橋区青年団南築分団を事例にして——田邊 尚樹 (175)

ヴァイマル期ドイツにおける教養市民層と民衆教育

——教養市民層の「教養」理解への問題視角——松井 健人 (185)

《翻訳》

幼稚園のなかのデモクラシー

——幼児たちが世界に安心して存在することを支えるということ——ガート・ピースタ (193)

(訳：鈴木康弘・高田正哉 監訳：小玉重夫)

『ドグマ史としての改革教育学』第5章 第1節ユルゲン・エルカース (211)

(木下慎・土屋創・松井健人・李舜志 訳)

《書評》

金森修『科学の危機』中野 浩 (225)

小玉重夫『教育政治学を拓く—18歳選挙権の時代を見すえて』

.....渡邊真之・松井健人 (229)

《ゼミ動向》 (233)

[大学院] 総合演習／川本ゼミ／小玉ゼミ／田中ゼミ／小国ゼミ／
片山ゼミ

[学部] 生・権力論と教育／教育人間学演習／教育臨床学演習／
日本教育史演習／価値と教育／人間形成論

《研究会動向》

「物語を愉しむ会（「ビルドゥングスロマンを読む会」改め）」の展望

.....宮澤 康人 (257)

《学位論文一覧》 (261)

* 研究論文IIおよび研究ノートは査読付き。